

所属	看護学研究科 看護学専攻 修士課程 看護マネジメント学分野	修了年度	平成 28 年度
氏名	山田 恵子	指導教員 (主査)	小林 紀明 (河津 芳子)

論文題目	看護大学生の臨地実習における他者との関わりと「個人の特性」の変化
------	----------------------------------

本文概要

【目的】看護大学生の臨地実習における体験から、患者・指導者・教員・自分にとっての大切な他者との関わりを通して、個人の特性がどのようなプロセスで変化を遂げるのか明らかにする。

【方法】領域別実習を実施している首都圏看護系大学4年次の学生10名を対象に、半構成面接を実施した。M-GTAを用いて、分析テーマの『臨地実習における職業的アイデンティティ形成のプロセス』に沿って分析を行った。

【結果】臨地実習における職業的アイデンティティ形成のプロセスとして、25の概念と6つのカテゴリーを抽出した。そのプロセスとして、〈地に足をつける〉事から始まり、〈看護者としての良い行動〉に影響を受けながら、〈患者と同じ目標に向かう〉。内省の機会は〈看護実践の理解の深まり〉を起す。このプロセスは、〈自分自身のコントロール〉に影響を与え、さらに、〈自分自身のコントロール〉と〈職業的アイデンティティの形成〉の間で、検討を繰り返しながら職業的アイデンティティが形成されていた。

【考察】Spencer&Spencer(1993)の根源的特性と武村の個人の特性の関係は、円の中心にある動因・特性が、「正確な自己評価」「感情の自己認識」、中間層の自己イメージが、「信念の維持」「セルフ・コントロール」「内省力」、外側の層の知識・スキルが、「自己研鑽・学習力」にあたると考えた。中心にある動因・特性は、他のコンピテンシーに影響を与えるため、「自己研鑽・学習力」の向上による知識・スキルの向上のためには、「正確な自己評価」「感情の自己認識」に働きかけることが大切である。

【結論】個人の特性は、「正確な自己評価」「感情の自己認識」によって動機づけられ、「信念の維持」「セルフ・コントロール」「内省力」の能力を身につけ、「自己研鑽・学習力」へと進む可能性が示唆された。

キーワード：看護大学生・臨地実習・職業的アイデンティティ・コンピテンシー